

第58回経営協議会議事録

1. 日 時 平成30年11月27日(火) 14時00分～15時55分
2. 場 所 ホテルクラウンパレス浜松 3階 松の間
3. 出席者 今野(議長)、伊藤、紀平、猿田、布村、御室、門田、山本、渡邊、田中、晝馬、
金山の各委員
陪 席 宮嶋副学長(教育改革担当)、浦野副学長(情報・広報担当)、蓑島副学長(研究担当)、西山監事、村本監事

4. 議事録の確認

第57回経営協議会議事録(案)を原案どおり確認した。

5. 議 事

(1) 平成30事業年度進捗状況及び補正予算(案)について

田中理事及び会計課長から、平成30事業年度進捗状況を踏まえた補正予算による措置
予定事項について、配付資料に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

(2) 平成30年度人事院勧告への対応について

渡邊理事から、平成30年度人事院勧告への対応について、「改正国家公務員給与法」
に準拠して人事院勧告分(平成30年度分)についての給与を改正することとしたいと、
その改正内容及び影響額について説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

(3) 報告事項

①平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果について

渡邊理事から、平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果について報告が
あり、本学を含めた3大学(旭川医科大学、滋賀医科大学)の評価結果について、
説明があった。

②平成29事業年度財務諸表の承認について

会計課長から、文部科学大臣より平成29事業年度財務諸表を承認する旨の通知
を受けたと報告があった。

③平成29年度目的積立金の繰越承認について

会計課長から、文部科学大臣より平成29年度目的積立金の繰越を承認する旨の
通知を受けたと報告があった。

④静岡大学との連携について

企画評価課長、会計課長及び議長から、静岡大学との連携に係る直近の状況等
について報告があった。

(4) その他

①学生当教育経費について

会計課長から、前回の経営協議会にて外部委員より指摘いただいた学生当教育
経費の他大学との相違について、現状の分析の説明があり、今後の方針について
報告があった。

次回の経営協議会について(平成31年1月22日開催予定)

※学外委員からの主な意見（○：学外委員の意見等、◆本学側の意見・説明等）

議事(1) 平成30事業年度進捗状況及び補正予算(案)について

- 新専門医制度でマッチングが増えていることは、大学が評価されているということである。また、医学教育振興財団が実施している「英国大学医学部における臨床実習のための短期留学」に二人も選抜されたことはすごいことである。
- 教育のグローバル化について、非常に前向きに取り組んでいるが、どういう評価をし、最終的に具体的な目標をどこに置いているのか伺いたい。途中経過の具体的な目標を設定し、達成度を評価していくと、学生や入学希望者にもわかりやすい。
- ◆教育のグローバル化について、具体的な工程、それに沿った成果を数値化し達成度を測るというステップは当然必要である。学生が英語に接する機会をどれだけ作るかが重要になる。その辺りのバランスをどこまで取るか検討しているところである。
- 図書の紙資料除却とあるが、サスティナビリティ、循環再活用、リサイクルが求められている中で、どう処分されているのか。
- ◆図書の除却について、各国立大学の図書館に廃棄図書リストを配付し希望図書を譲渡している。その後、本学の教職員、学生、市の図書館に案内している現状である。
- 診療面では、今まで対症療法的な取り組みしかなかった発達障害の治療に素晴らしい成果があったことは喜ばしいことである。治療法の開発が実現することを願いたい。
- ◆自閉症に関して、精神科領域もエビデンス・ベースドによる医療が浸透しつつあるということで、研究リーダーに期待している。
- 教育・研究・診療とも、右肩上がりですばらしい。研究に関して、学長方針による得意分野をお示しいただきたい。診療でも、収入に比べ必要経費が上がってきているのが一般的であるが、どういう工夫をされているのか。
- ◆「光」が本学の1つの特徴であり、主軸でもある。そこを実現するために光先端医学教育研究センターが平成28年1月1日に開設された。「産学連携」がもう1つの軸であり、認められている点である。本学はその2つをベースにおいて、機能強化の中で3本の柱を立てている。心の研究、血管系の研究、そしてゲノムをスタートとするような個別医療の研究である。その3本の柱をすべて、光を横系に通して関連させるところは関連させていこうということを行っている。光先端医学教育研究センターは、大学全体の各講座がそういう研究をできるように後押しをしている。
- 病院は人件費率もさることながら、高額薬剤などの材料費で一般に苦労していると思うが、その辺のところはいかがか。
- ◆外来診療経費は増加しており、高額薬剤等をどのように適切に使用するかということは全体で考えないといけない。高額な薬品が増えているのが現実であり、来年は医療経費もかなり増額が見込まれるが、それ以上に手術件数、分娩件数などの生身の収益が増えているので、そこで相殺する形で行えればよいと思っている。
- 患者数は増えているのか。
- ◆紹介患者が増えている。また、県内の西部地域以外の中部・東部からの患者も現在3割

程度を占めている。

- 安定した経営で、人件費と医療材料費の割合が 78%で推移しているということだが、割合があまり低くても診療の質の問題になっていく。経営としてバランスの指標をどのくらいとみているのか。
- ◆80%弱が理想的ではないか。

議事（3）報告事項 ①平成 29 年度に係る業務の実績に関する評価結果について

- 男女共同参画は働き方改革の面でも非常に重要である。今回の評価の対象は、病児病後児保育室なのか、これを含めた全体ということなのか。
- ◆全体を含めて、男女共同参画にしっかりと取り組んでいるということが評価された。
- 24 時間保育を行っているのか。
- ◆病児病後児保育は行っていない。通常保育は、週 2 日夜間保育を行っている。

議事（3）報告事項 ④静岡大学との連携について

- これから先の大学がどうあるべきか、これから 20 年、30 年、50 年後の評価を考えるときに、躊躇することなく進むことのほうが今の日本には必要ではないか。
- ◆社会の仕組みや経済も随分変わってきており、教職員も意識改革をしなくてはならない。そういう面でも、大学統合再編がうまく機能するとよい。